

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
31	杏林大学	異文化コミュニケーション	海谷 千波 外国語学部 准教授	2	前期	水	15	9:00～10:30	杏林大学 井の頭キャンパス	若干名

【到達目標】

異文化交流の長い歴史が[再]生産してきた「日本文化／外国文化」あるいは、「自文化／異文化」の言説や表象を批判的に考察し、世界の文化の共通性や多様性を表現する力を伸ばすとともに、積極的に文化交流を図ろうとする態度を身につける。

【授業の概要】

本科目の目的は、従来の「異文化交流」の課題に対する改善案を提示するとともに、自らがより良い文化交流(あるいは交流文化)の実践者になることである。多様な背景を持った人々との交流を通して、多様性や交流の持つ意義について体験的に理解するとともに、日常生活に根付く「身近な文化」やその2つのルーツを[再]発見したり、交流に関わる文化やルーツを国内外に発信する力も身につけたりする。

【授業内容】

第1回 受講上の注意;文化交流の歴史と教育の現状の理解(授業形態:講義・質疑応答+アクティブラーニング)

【『高等学校学習指導要領』における様々な「交流」と、教科関連系の重要性について理解する。】

第2回 文化の相互理解と文化の3層構造の理解(授業形態:講義・質疑応答+アクティブラーニング)

【文化の相互理解に必要な文化の物質的・行動的・精神的側面について理解する。】

第3回 物質文化に関わる交流の理解(授業形態:講義・質疑応答+アクティブラーニング)

【日本や海外にルーツを持つ世界の衣食住の共通性や多様性について理解する。】

第4回 物質文化に関わる交流の準備(授業形態:アクティブラーニング)

【日本や海外にルーツを持つ世界の衣食住の共通性や多様性について調べ、まとめる。】

第5回 物質文化に関わる交流(授業形態:アクティブラーニング)

【交流・発表を通して、世界の衣食住について相互理解を図る。】

第6回 行動文化に関わる交流の理解(授業形態:講義・質疑応答+アクティブラーニング)

【日本や海外にルーツを持つ世界の言語・非言語コミュニケーションの共通性や多様性について理解する。】

第7回 行動文化に関わる交流の準備(授業形態:アクティブラーニング)

【日本や海外にルーツを持つ世界の言語・非言語コミュニケーションの共通性や多様性について調べ、まとめる。】

第8回 行動文化に関わる交流(授業形態:アクティブラーニング)

【交流・発表を通して、世界の言語・非言語コミュニケーションについて相互理解を図る。】

第9回 精神文化に関わる交流の理解(授業形態:講義・質疑応答+アクティブラーニング)

【日本や海外にルーツを持つ世界の宗教や信仰、価値観や世界観等の共通性や多様性について理解する。】

第10回 精神文化に関わる交流の準備(授業形態:アクティブラーニング)

【日本や海外にルーツを持つ世界の宗教や信仰、価値観や世界観等の共通性や多様性について調べ、まとめる。】

第11回 精神文化に関わる交流(授業形態:アクティブラーニング)

【交流・発表を通して、世界の宗教や信仰、価値観や世界観等について相互理解を図る。】

第12回 学校などにおける交流活動の理解(授業形態:アクティブラーニング)

【交流の現状と課題を理解する。】

第13回 学校などにおける交流活動の考案(授業形態:アクティブラーニング)

【交流の企画・交渉・調整・運営案を作成する。】

第14回 学校などにおける交流活動の発表(授業形態:アクティブラーニング)

【交流の企画・交渉・調整・運営案を発表するとともに、質疑応答する。】

第15回 授業のまとめ(授業形態:講義・質疑応答)

【文化交流の理論的及び歴史的研究と教育実践の展望】

【成績評価方法】

学生に対する評価

(1)ポートフォリオ(30%)

(2)交流・発表(25%)

(3)課題(25%)

(4)授業参加・貢献度(20%)

以上、(1)～(4)を基に、総合的に評価する。

【教科書】

加藤淳平(1996).『文化の戦略—明日の文化交流に向けて—』. 中央公論社.

※電子書籍で購入し、タブレット端末で携帯すること。

【参考書、教材等】

(1)長谷川権(2009)『和の思想 異質のものを共存させる力』

(2)遠山淳・中村生雄・佐藤弘夫編(2009)『日本文化論キーワード』有斐閣

(3)本名信行(1999)『アジアをつなぐ英語—英語の新しい国際的役割—』アルク

※ この授業は、4/6(水)が初回です。